

### ■ 基本計画策定の背景と目的

#### 【背景】

平成27年9月に世界に貢献できる都市として発展していくことを目指し、神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]及び三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定しました。

『再整備基本構想』において、目指すべき将来像として「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」を掲げ、「えき」（6つの駅とバス乗降場）と「まち」をつなぐ神戸の象徴となる新しい駅前空間として「えき～まち空間」を創出することを示しました。

#### 【目的】

公共施設の計画や、民間施設に期待される機能や設えなどについて、**官民共通の具体的な目標像及びその実現に必要な取り組み**を示すことを目的に作成しました。

#### 「えき～まち空間」の目標像

- ① 三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間
- ② 「えき」と「まち」が行き来しやすく、より便利で回遊性を高める空間
- ③ 美しき港町・神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間

＜基本計画対象エリア＞



### ■ 「えき～まち空間」の構成と特性

#### ① 駅と駅をつなぐ

各駅の改札口からの乗換動線をわかりやすく、移動しやすくするとともに、新たなバスターミナルや駅前広場を整備することで、バス乗降場を集約しわかりやすさを向上させます。

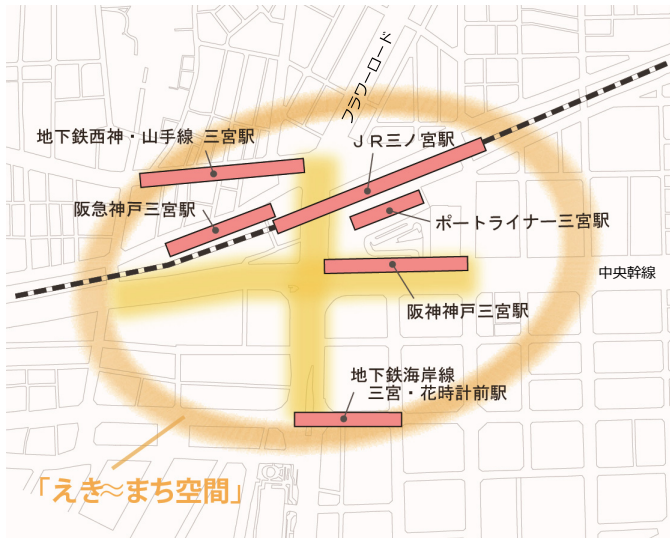
#### ② 「えき」と「まち」をつなぐ

「えき～まち空間」の核である「三宮クロススクエア」を創出することで、現在、道路によって分断されている「えき」と「まち」をつなぎます。

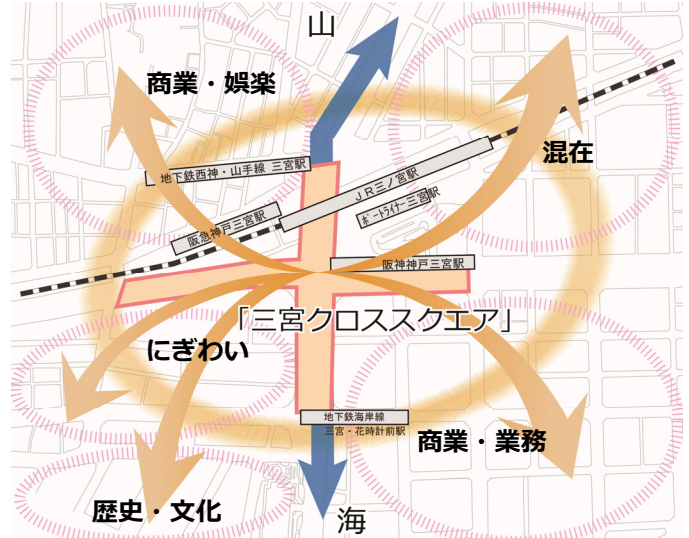
#### ③ 神戸の玄関口をつくる

「三宮クロススクエア」と三宮交差点を囲む4つの街区の民間開発が、互いに向き合うデザインとすることで、神戸の玄関口にふさわしい空間を創出します。

＜駅と駅をつなぐイメージ＞



＜「えき」と「まち」をつなぐイメージ＞



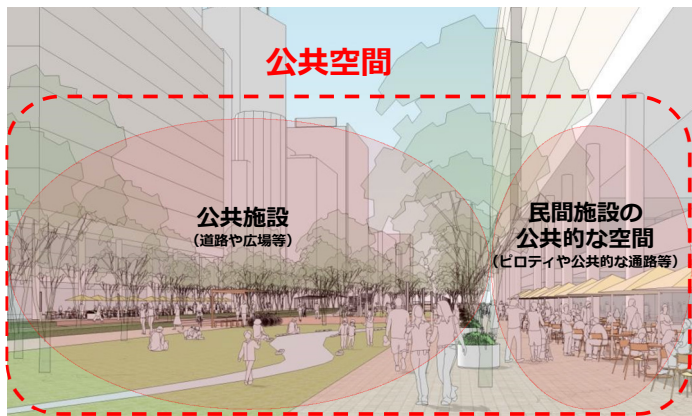
# 「えき～まち空間」の基本的な考え方

## 【空間】

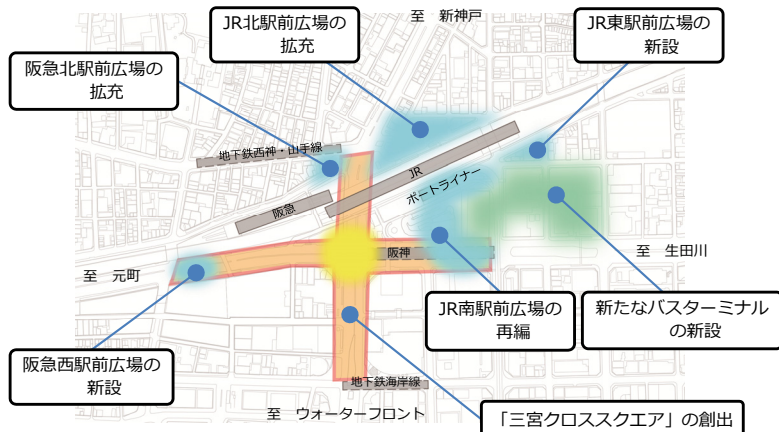
### 基本的な考え方

「えき～まち空間」では、行政が中心となって整備する道路や広場等の「公共施設」と、周辺の「民間施設の公共的な空間」をあわせて「公共空間」とし、官民の連携によって一体的な空間を整備します。

#### <官民連携による一体的な空間整備イメージ>



#### <公共施設の配置イメージ>

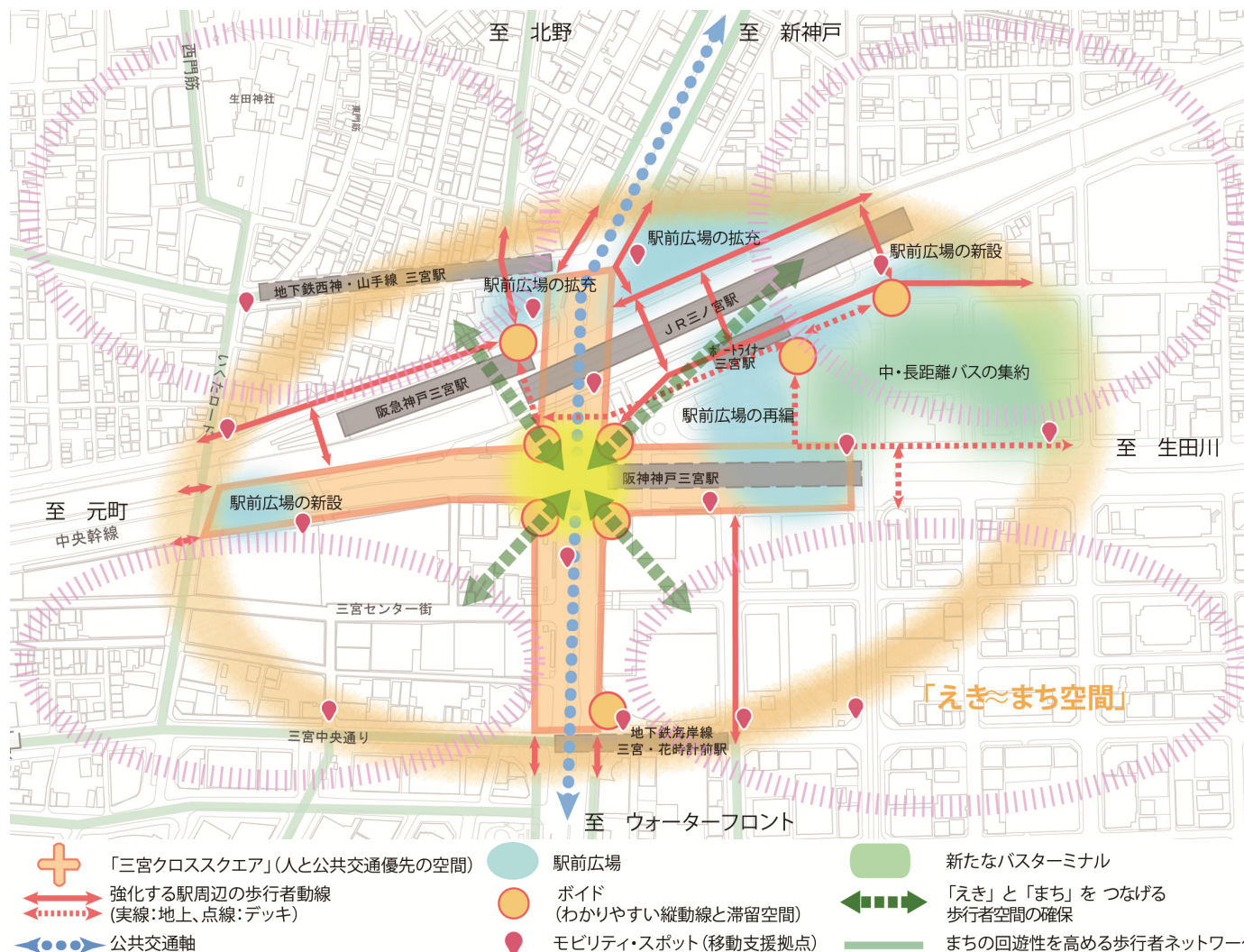


## 【交通】

### 基本的な考え方

- 移動しやすい動線の確保による、駅から駅への乗換動線の改善
- 歩行者空間の充実による、「えき」から「まち」への回遊性の向上
- バスやタクシーの乗降場の集約等による、公共交通の利便性の向上
- 駅前広場の再編、拡充、新設等による、自動車や自転車の駅やまちなかへのアクセスの向上

#### <交通の考え方 計画図>



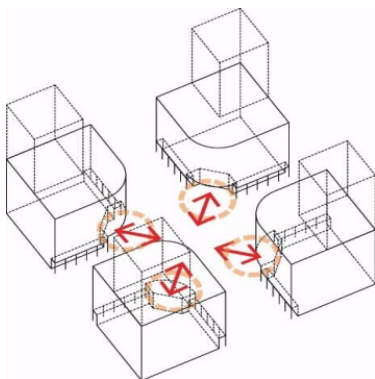
- 都市と自然が調和する景観
- 神戸らしさを感じる“まちなみ形成”
- 温かみのある“夜間景観”

景観形成の基本的な考え方に基づき、官民が連携して、建築物と公共空間が一体となった魅力的な景観を創出していくために景観形成に求める要素を明らかにし、景観デザインコードの設定に取り組みます。

景観形成に求める要素

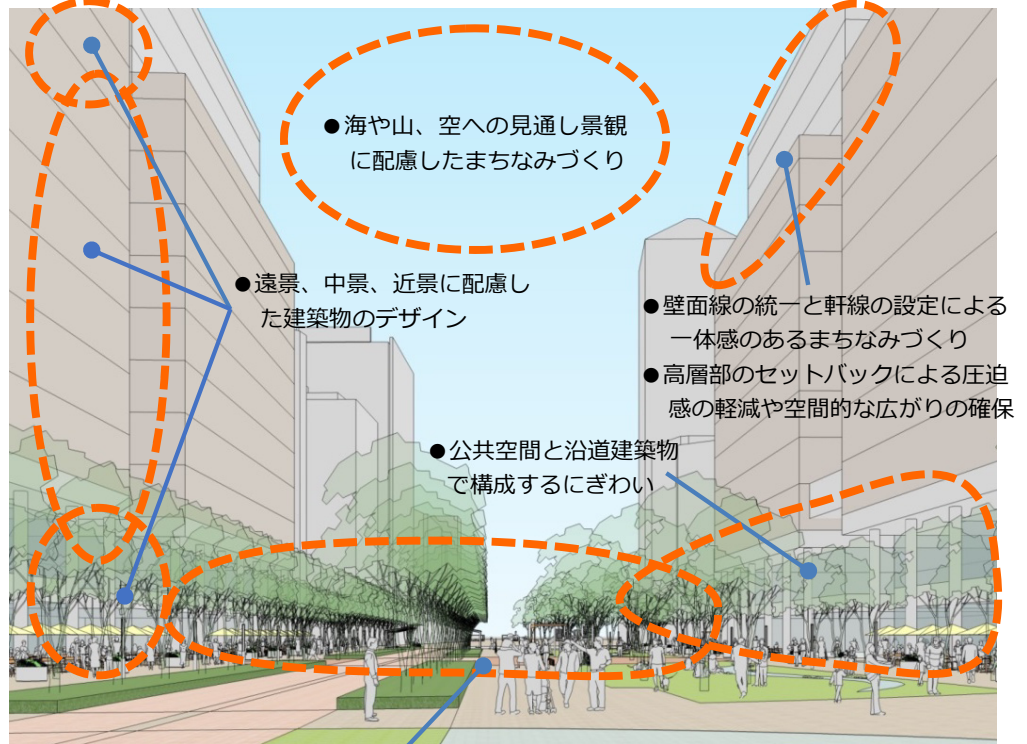
- 1) 公共空間と「まち」のつながり
- 2) 開放感とゆとりを感じる空間
- 3) 高質で穏やかなデザイン
- 4) 新しい神戸の玄関口

＜玄関口としての顔づくり＞



※「三宮クロススクエア」の中心である三宮交差点のイメージ

＜「三宮クロススクエア」での景観形成イメージ（案）＞



●沿道の「まち」の個性を踏まえた、ゾーンごとの公共空間デザイン

＜景観デザインコードの設定＞

景観デザインコードは、「公共空間」、「建築物」、「夜間景観」、「屋外広告物」の4つの視点のもと、「景観形成方針」、「景観形成基準」、「ガイドライン」により構成します。

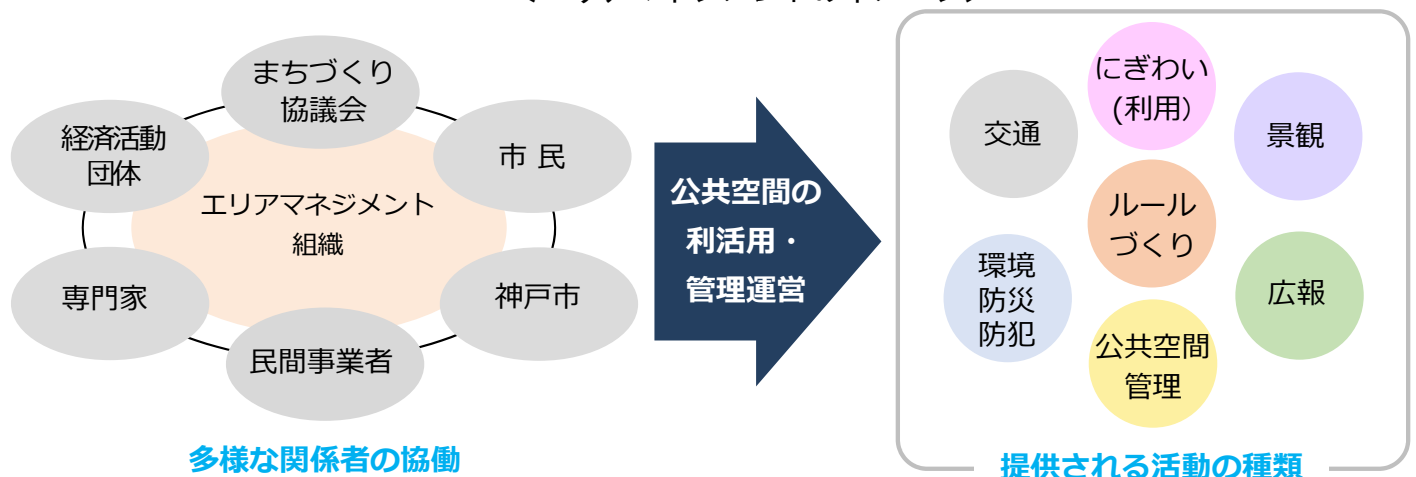
- ・景観形成方針：基準やガイドライン等の前提となるコンセプト
- ・景観形成基準：法令に基づく行為の制限事項等（主に行政による運用を想定）
- ・ガイドライン：基準化になじまない誘導事項等（地元協議会と行政の連携による運用を想定）

■「えき～まち空間」の実現に向けた今後の取り組み

【「えき～まち空間」を活かす協働の仕組み】

「えき～まち空間」を神戸の玄関口にふさわしいにぎわいのある空間とするために、多様な関係者の協働によって、公共空間の利活用、管理運営を行う「エリアマネジメント」に取り組みます。

＜エリアマネジメントのイメージ＞



多様な関係者の協働

提供される活動の種類

# 【都心における交通体系の考え方】

新神戸・北野・元町・ウォーターフロント等を含む都心において、歩行者が中心のまちの実現に向けた交通体系の見直しを行うため、以下の3つの視点を踏まえた総合的な交通体系とします。

## 自動車交通マネジメント

- 都心を通る交通の円滑な処理
- 都心へのアクセスの向上
- 自動車交通から公共交通への転換

## 歩行環境の向上

- 道路空間の再配分等による歩行者動線の強化
- 憩いとにぎわい創出に資するたまり空間の整備

## 公共交通など多様な交通手段の確保

- 多様な交通手段の確保
- 公共交通の乗り換え利便性の向上
- 自動車交通から公共交通への転換

### <都心の自動車交通ネットワーク>



### <「三宮クロススクエア」の段階整備のイメージ>

[第1段階] (2025年頃)  
「三宮クロススクエア」東側の車線減少



[第2段階] (2030年頃)  
「三宮クロススクエア」東側の完成

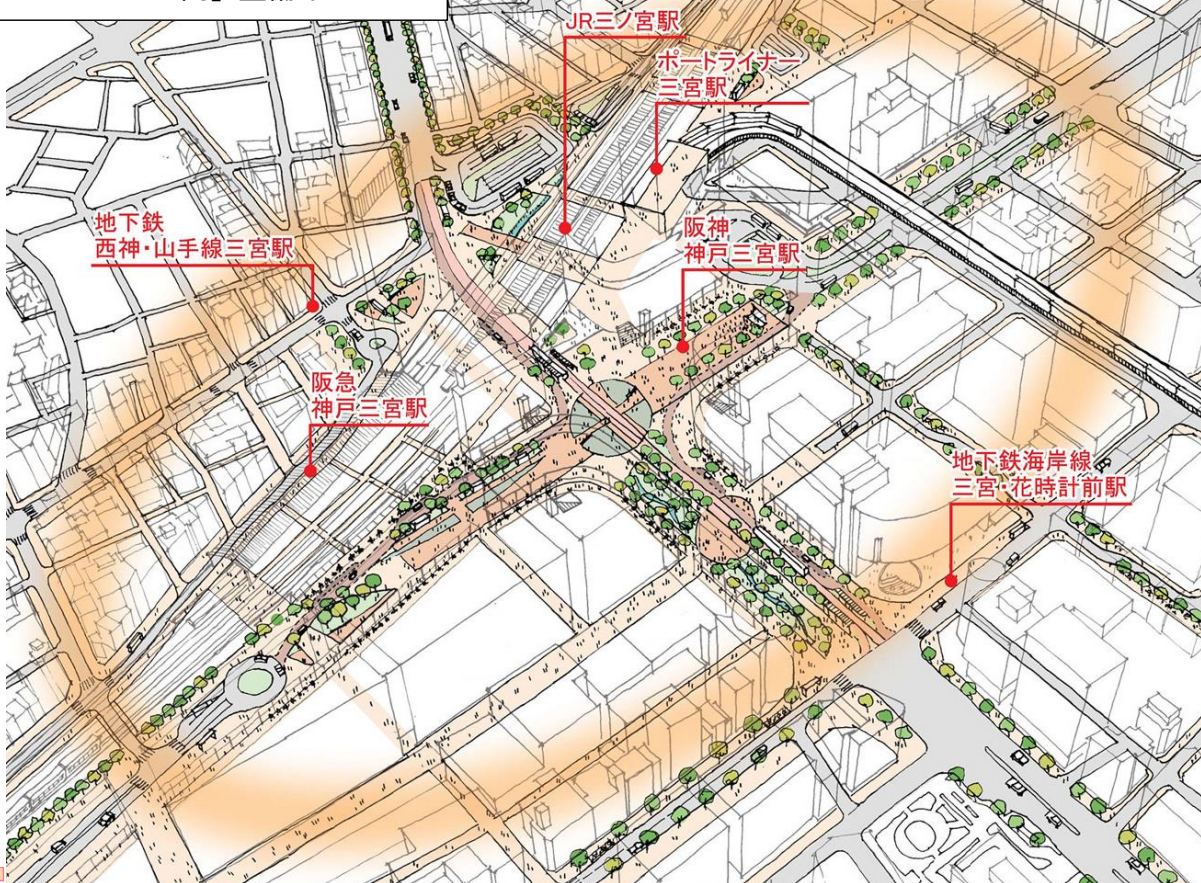


[将来像]  
「三宮クロススクエア」完成



※必要な対策を実施し、交通状況を見据えながら、段階的に進めます。

### 「えきまち空間」整備イメージ



「えきまち空間」に関する情報はホームページでご覧いただけます。



えきまち空間

